

トマト直売の先駆け

【埼玉】熊谷市にある久保田農園の久保田修司さん（70）と康士さん（30）は家族4人で施設トマトを栽培。40年以上続く同農園は、量より品質重視で消費者からの人気も高い。地域で初めて直売型の経営を確立し、良食味のトマトを自宅直売所で販売している。

土づくりには特に気をつかい、たい肥化した麦わらなどの有機質肥料を多用している。トマトは温度に敏感で、わずかに室温が変わるだけで生育に大きな違いが生じる。このため、長年の経験をもとにその日の天候を考慮し、温度や湿度、水管理を徹底している。

「常にベストな味となるよう愛情を持って育てている」と修司さん。

有機質肥料を多用

愛情持って「常にベストな味に」

「食べた人から『今年もおいしいね』と喜んでもらえるのがやりがい」と康士さんは話す。

農園の直売所はすぐ売り切れてしまうほど大盛況だ。今、力を入れている品種は「ごほうび」で、これまで栽培した中で一番消費者に人気があるという。「直売所は採れたての完熟トマトを消費者へ届けられるのが良さ。直接消費者と話ができるのも魅力」と修司さん。

また、同農園では30年ほど前から担い手の育成に力を入れている。農業大学の学生を受け入れ、約2カ月間の研修を行う。これまでに40人ほどを受け入れてきた。康士さんは「学生たちの実習の場に携われるのは光栄なこと」と話す。一人一人に「自らの農業への向き合い方」が伝わるよう、学生の性格に合わせて教え方を工夫している。さらに、地元の小・中学生、高校生たちの体験学習や、新規就農希望者のインターンシップも受け入れている。

今後について二人は「仲間と協力しながら、地域全体で農業を盛り上げていきたい。何よりも消費者に喜んでもらえるトマトを作り続けていきたい」と語った。



久保田修司さん（中央）、妻の淑枝さん（左）、康士さん（右）